## 属人区長の書簡 (2012年3月)

エチェバリーア司教は、今月 の書簡において、「伝統的な 霊的慈善の業のひとつ」であ り「聖ホセマリアが大切にす るよう論し、教皇様が特に重 視しておられる、兄弟的説 が実行」について話されま す。

2012/03/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

イエス・キリストが、公生活を始め られる前に、荒れ野で四十日間を祈 りと断食のうちに過ごされたことを 記念する典礼暦である、四旬節に入 りました。師イエスは「時は満ち、 神の国は近づいた。悔い改めて福音 を信じなさい | [i]と回心が急を要す ることであると呼びかけ、盲教活動 を始められました。同じく教会は、 恩恵が豊かにもたらされるこの典礼 上の時を活用して、神に近づくため の力強い一歩を踏み出すようにと私 たちを励まします。

回心は日々必要なことですが、始まったばかりのこの数週間には、それをより火急なこととして訴えます。永遠のいのちへと導く小道において、気づかないうちに僅かに針路を逸れることがあり得ます。ですか

ら教会は、知恵あるよき母として、 ミサ聖祭の祈りや聖書朗読を通し て、信者一人ひとりに来る日も来る 日も具体的な点で回心するよう教え つつ、悔い改めの必要なことを明示 します。神の子として私たちは、こ れらの祈りや聖書の箇所を念祷で考 察し、活用するよう努めましょう。 「私たちを復活祭へと導くこの四十 日の間、忍耐と信仰をもって、どん な困難と苦悩と試練に満ちた状況を も受け入れる新たな勇気を再び見い だすことができますように。主は暗 闇から新たな日を昇らせることを悟 ることができますように。| [ii]

四旬節の典礼は特別な恩恵をもたらして、心を改めるよう促し、善い行いができるようにしてくれます。創立者のある考察を読み返すことにしましょう。「回心は一瞬の問題ですが、聖化は全生涯にたる事業です。神が心の内に蒔いてくださった愛の種が成長し、行いの実を結ぶことを

主は望んでおられます。私たちもい つも手の喜びになる実を結びたいと 願っています。ですから何度も再出 発を試み、私たちの生活に新たな場 面が登場する度に、あの最初の回心 の時の力と光を再び自分のものにす る覚悟が不可欠となるのです。こう 考えてくると、さらに深く主を知り たてまつり、自己のありのままの姿 をさらによく自覚するためには、主 に援助を乞い、深い自己反省によっ て自己を整える必要のあることが理 解できることと思います。生活を一 新しようと思えばこれ以外に道はな いのです。」「iii」灰の水曜日からど のように努め始めたでしょうか。ど んな目標を立てたでしょうか。日々 喜んで償いを捧げ、イエス・キリス トにより近づくようにしているで しょうか。

教皇様はヘブライ人への手紙の一 節、「互いに愛と善行に励むように 心がけましょう | [iv]を今年の四旬 節メッセージのテーマとされ、私た ちにそれを考察するよう勧めておら れます。続いて、この一節にはより 広大な背景のあること、つまり、キ リストを迎えるためには、対神徳の 実行が不可欠であることを示してお られます。「それは、『信頼しきっ て、真心から』(ヘブライ10・22) 主に近づき、『公に言い表した希望 を』(同23)しっかり保ち、兄弟姉 妹とともに『愛と善行』(同24)を 生きるよういつも心がけることを意 味します。このように福音に忠実な 生活を続けるためには、交わりとい う終末論的目標を認識しながら、典 礼と共同体の祈りに参加することが 大切(同25参照)です。」[v]

ベネディクト16世は、ここ数年間と同様に、祈りと断食と共に四旬節の典型的な償いの行為である愛徳の業に改めて注視しておられます。以前別の機会に、私は念祷の時間を大事にし、償いの精神を新たにするよう

にと促しました。そうすることに よって、キリスト信者の生活を味わ い深いものにする犠牲をより熱心に 実行し、隣人を物的に霊的に助ける ことができるのです。今回は、この ようにキリスト教精神に沿って過ご すよう勧めることに加えて、伝統的 な霊的慈善の業のひとつを取り上げ たいと思います。聖ホセマリアが大 切にするよう諭し、教皇様が特に重 視しておられる、兄弟的説諭の実行 です。イエス・キリストご自身、弟 子たちにこう命じておられます。

「兄弟が(…) 罪を犯したなら、 行って二人だけのところで忠告しな さい。言うことを聞き入れたら、兄 弟を得たことになる。」[vi]

この愛徳の表し方の教示は一箇所だけに留まりません。既に旧訳聖書にも度々登場しています。例えば、こういう勧めがあります。「知恵ある人を叱れ、彼はあなたを愛するであろう。知恵ある人に与えれば、彼は

知恵を増す。神に従う人に知恵を与 えれば、彼は説得力を増す。」[vii] また、次のようにも言っています。 「諭しを守る人は命の道を歩み、懲 らしめを捨てる者は踏み誤る。| [viii] 新約聖書には、イエスの教えに 従い、神に向かってしっかりとした 歩みを続けるよう人々を支えるこの 細やかな兄弟愛を実行することが、 何よりも急務であるとして具体的に 教示されています。聖パウロは、そ れを「柔和な心で」「ix」、他の人を 敵ではなく兄弟と見なして[x]、実行 しなければならないと忠告していま す。また聖書は「鍛錬というもの は、当座は喜ばしいものではなく、 悲しいものと思われるのですが、後 になるとそれで鍛え上げられた人々 に、義という平和に満ちた実を結ば せる | [xi]ことにも気づかせてくれ ます。そして使徒ヤコボはこう結論

た方の中に真理から迷いでた者がい て、誰かがその人を真理へ連れ戻す

づけています「私の兄弟たち、あな

ならば、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、その罪人の魂を死から強れい出し、多くの罪を覆うことになると、知るべきです。」[xii] 聖ホセマリアは、どこかのセンターを訪れる際、病人がいるかどうかを尋ねた後、必ず「喜んでいますか」、「兄弟的説諭を実行していますか」と尋ねていました。

嘆かわしいことに、主があれほど熱 心に教え、使徒たちと多くの聖人た ち、そして創立者が引き継いだこの 霊的な慈善の行いは、ほとんどのキ リスト者が忘れ去っています。教皇 様はこの現状を憂慮され、こう述べ ておられます。「ここで、私は、忘 れ去られたように思われるキリスト 教的生活の一つの要素を指摘したい と思います。それは、『永遠の救い に目を向け、兄弟間で忠告し合う』 ことです。現在、私たちは概して、 愛という概念と、他者の身体的、物 的福利への配慮に関しては非常に敏 感です。しかし、兄弟姉妹に対する 霊的な責任に関しては、ほとんど言 及しません。しかし、初期教会や真 に信仰が成熟した共同体はそうでは ありません。彼らは、兄弟姉妹の身 体的健康だけでなく、霊的な健全さ と究極的な運命にも心を配っている のです。」[xiii]

感謝すべきことに、教会の一部であ るこのオプス・デイ属人区では、私た ちが優れていると思うからではあり ませんが、非常に福音的なこの習慣 が大事にされ、実行されています。 創立者は、神からもたらされた特別 な光で、聖書の幾つかの教えを掘り 下げて考え、創立当初から個人的に それを実行し、他の人たちにも教え ました。「福音書に根拠を持つ| [xiv]ことを強調し、そして付け加え られました。「それはいつも、愛情 が超自然的なものであり信頼してい ることの証しです。さらに初代教会

のよい雰囲気を味わわせてくれるも のです。」[xv]

聖ホセマリアは、福音書に基づくこ の習慣を、聖座が1950年にオプス・ デイの精神を最終的に認可する際 に、創立者とオプス・デイの統治に おける継続者たちもまた、聖霊が霊 的生活を深めるために用いるこの聖 化の手段から実りを受け取れるよう にと、譲歩しなかったのです。創立 者は非常な単純さで、子どもたちに こうコメントしました。「聖座に私 たちの規約を提出した時(…)、パ ドレに対する兄弟的説諭について話 すと、いつも難色を示し、上長を正 すことなどどうしてできますか、彼 には何も言えないはずだ、と言われ ました。私は同意せず、説明したも のです。罪人に過ぎない私をどうし て例外にすることができましょう か。私についてくる人たちは私より も立派な人たちでしょうが、彼らも また哀れな人間なのです。この聖化

の手段からの実りをもたらされなく てもいいのでしょうか。実にもるといいのでしょうか。実行する と、兄弟的説諭をする人は難儀でる人 は、兄弟的説諭をする人は難儀でる はれに打ち勝って実行し、受け入れ は痛い思いをしても謙遜に受け入れ は痛い思いをしても は痛いまする素晴らしい まする素晴らしい まする素明ます。 とに し、やっと 賛成を得ました。」 [xvi]

創立者は兄弟的説諭のやりかたと受 け方を明確に教えました。「賢慮と 愛徳の規定 | について、いつも必要 なことであり、自身と相手を本当に 聖化する手段になるように、実行す べきだと話していました。第一に、 いつも超自然的な愛徳と人間的な愛 情、自分と人々の聖性への関心の表 れでなければなりません。聖ホセマ リアの主張は明快でした。「必要な ときは、中身と什方の点で優しく心 こまやかな一愛のこもった一兄弟的 説諭をしなければならない。その時 あなたは神の道具なのだから。」
[xvii] というのも、教皇様が四旬節
メッセージで説明されているように
「キリスト教的な忠告は、責めたり
非難し合ったりといった考え方のも
とに行われるのではありません。それはつねに、愛といつくしみによって動かされ、他者の善を真に配慮することから生じる」[xviii]ものだからです。

この明確な原則によってオプス・デイ では、兄弟的説諭で何かを注意する 前に、ふさわしいかどうかを相談し ます。そうすることによって、その 兄弟に話すよう促す意向の正しさを 確かめた上で、一つひとつの具体的 な状況を考え、説諭を受ける人に実 際に役立つ方法で実行するよう勧め ることができるでしょう。こうし て、人々に仕えるこの手段が本当 に、いつも腎慮と細やかさ、人々へ の尊敬の念を純粋に表すものとなり ます。あらゆる環境で創立者が正し

い考えの下に振る舞っておられたことに、感動します。誰かに、あるにます。 はある振る舞いに不平を言う人にいるになる振る舞いに不平を言うたかしました。 その人と話しました。それがといるも、「そうしたらいですよ。それが改める機会になるでしょうから」と言い添えておられました。

 を殺伐としたものにしてしまうのです。

すべての人が誠実さの重要性を再発 見するよう熱心に働きかけましょ う。この自然徳は、人々との相互関 係、社会生活や専門職などの基盤な のです。この観点から、賢慮と愛徳 に支えられた兄弟的説諭の実行が特 に必要です。聖ホセマリアは紹自然 的な現実主義に基づいて、こう強調 していました。「私たちは皆、欠点 だらけです。私たちは一人ひとり、 戦うよう努力すべき欠点に気づきま す。しかし、他にも気づいていない 欠点がたくさんあります (…)。そ のうちのいくつかを兄弟的説諭で指 摘してくれます。兄弟的説諭をする のは愛しているからであり、私たち は愛情あふれるキリスト者の家族と して生活しているからです。

皆との共同生活とは互いに愛し合い、理解し合い、ゆるし合うという

ことです。しかし、ゆるし合いながらも、中には無視すべきではないこともあります。これを一人ひとりに兄弟的説諭で示さなければならないのです。」[xix]

福音書に基づくこの勧めは、神への 忠実が危ぶまれるような時には、火 急のことになります。それゆえ、教 皇様はこう書かれたのです。「キリ スト者の愛のわざにおけるこの側面 を再発見することが重要です。悪を 前にして沈黙してはなりません。真 理に逆らい、いつくしみの道に沿わ ない考え方や行動をしている兄弟姉 妹を戒めずに、対人関係や単なる個 人的な都合から世間一般の考え方に 迎合しているキリスト者すべてを私 は憂慮します。| [xx] 確かに、この 点で人々を助けることはいつも難し いものです。「少なくとも最初の内 は、へりくだるのが難しいから、説 諭を受けた人は苦しむ。ところで、 説諭をする方は、いつになってもつ

らいものだ。これは誰もが知っている。」[xxi] そして、別の折に創立者は付け加えています。「なかなか実行し難いことで、遠慮するほうが楽でいい。確かにその方がずっと楽ではあるが、超自然的な態度ではない。そして、説諭を怠ったことについては、神に申し開きをしなければならない。」[xxii]

この手紙が届く頃、私は年の黙想会 に参加しているはずです。実り多い 黙想会となるよう祈ってください。 教会とオプス・デイ、娘たちと息子た ち、そして全ての人たちに、よりよ く仕えるために、更なる主への回心 がありますように。繰り返します が、私の意向に一致してください。 時を同じくして教皇庁でも、教皇様 と側近の方々の黙想会があります。 いつも繰り返しているように、教皇 様とそのご意向のための祈りを倍加 するためのまたとない機会です。ま た、特別に、3月23日から29日まで

の、メキシコとキューバへの司牧訪問の旅行中、教皇様のため、使徒職の豊かな実りのため、主に祈り求めてください。

ペンを置く前に、列挙するだけです が、今月祝う家族の祝日や記念日を 思い起こしておきたいと思います。 11日は愛するドン・アルバロの誕生 日で、23日はdies natalis 帰天記念 日です。19日は教会とオプス・デイ の保護者聖ヨセフの祭日。それに続 く聖母のお告げの祝日は、典礼上今 年は3月26日に祝われます。28日は 聖ホセマリアの司祭叙階を改めて記 念し、思い起こします。聖母の御取 次ぎを願い、誠実な向上の熱意を もってこの日々を過ごすなら、四旬 節固有の恩恵をよりたやすく受ける ことができるでしょう。

日々、私は焦燥感にかられていることを告白します。あなた方が働いているあらゆる所にまで行きたいと

思っています。聖ホセマリアの言葉を思い出します。「『なぜローマに留まっているのですか』と私にいるのですか』と私はなら、『そうしなければなられた。と答えるでしょう」と答えていました。と近くにおられたことでしょう。と、言い足したいと思います。

このような深い内的改善と使徒職の 熱意を高める望みをもって、皆さん に祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2012年3月1日

[i] ローマミサ典礼書、四旬節第一主 日の福音 (B) (マルコ1,15)。

[ii] ベネディクト16世、2012年2月 22日一般謁見の講話。 <u>[iii]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 58。

[iv] ヘブライ10,24.

[v] ベネディクト16世、2011年11月 3日2012年四旬節メッセージ。

[vi] マタイ18,15.

[vii] 箴言9,8-9.

[viii] 同上10,17.

[ix] ガラテヤ6,1.

[x] 2テサロニケ3,15参照。

[xi] ヘブライ12,11.

[xii] ヤコボ5,19-20.

[xiii] ベネディクト16世、2011年11 月3日2012年四旬節メッセージ。

[xiv] 聖ホセマリア、『鍛』566。

[xv] 聖ホセマリア、1964年11月。

[xvi] 聖ホセマリア、1958年11月21 日家族の集まりでのメモ。

[xvii] 聖ホセマリア、『鍛』147。

[xviii] ベネディクト16世、2012年11 月3日2012年四旬節メッセージ。

[xix] 聖ホセマリア、1962年12月30 日家族の集まりでのメモ。

[xx] ベネディクト16世、2011年11月 3日2012年四旬節メッセージ。

[xxi] 聖ホセマリア、『鍛』641。

[xxii] 同上146。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2012nian-3yue/ (2025/12/16)